

乾屋敷古墳（史跡野古墳群）の発掘調査（令和8年度）

主催：大野町教育委員会

協力：南山大学原田昌浩研究室

調査の目的

乾屋敷古墳は、史跡野古墳群を構成する前方後円墳です（図1）。野古墳群で最初に築造されたと考えられています。墳丘は、南半が削平され原形が大きく損なわれています。このことに加えて、土留めの石垣の劣化などの課題が深刻化してきたことにより、保存方法等を検討するための基礎的な情報の把握を目的に、令和3年度から調査を進めています。

調査の経過

乾屋敷古墳は、墳長が78mほどの前方後円墳とされてきました。これまでの調査で後円部の墳丘裾が2カ所で確認され、想定より規模が大きく、墳長が100mほどとなりそうです。また、前方部の墳頂と後円部の第2段目平坦面では円筒埴輪列が一部残存していることも確認されています。

今年度調査の目的

前方部の削平された墳丘の規模・形状、ならびに周濠の幅・形状を確認するための調査区（トレンチ1）、くびれ部の確認のための調査区（トレンチ2）、後円部第2段目平坦面の埴輪列および第3段目斜面の残存状況等を確認するための調査区（トレンチ3）を設定しました（図2）。

今年度調査の成果

トレンチ1

墳丘裾と周濠を確認しました。墳丘盛土は大きく削平されていましたが、墳丘からの転落石とその裏込め土とみられる粘質土が検出されました。粘質土が検出された位置が墳丘裾にあたると考えられます。また、地山の落ち込みが検出され、周濠と考えられます。地山直上には黒色粘質土が堆積しています。周濠内の遺物から、中世までは古墳の周濠の落ち込みが残っていたことが分かります。粘質土の上層には黒褐色土と黄褐色土が交互に堆積し、いずれも周濠側から墳丘側に向かって斜めに堆積しています。さらに周堤に、周濠と平行して2つの土坑が確認できました。

トレンチ2

前方後円墳のくびれ部、または付属施設である造り出し・渡り土手のいずれかの可能性のある遺構を検出しました。トレンチ南西部において、前方部側から北東へと伸びる葺石が、南へと向きを変え、直線的に続いている状況を検出しました。また、葺石の石材には角張ったチャート・石灰岩・砂岩等が使われています。

トレンチ3

後円部第2段目平坦面の推定主軸上付近において円筒埴輪列を検出しました。令和7年

度トレンチ5にて既に検出されている2本の円筒埴輪の南西側の広がり、第3段目の斜面を検出する目的で調査を進めています。現状では、昨年度確認されたものと合わせて8基の埴輪が確認されています。これらの埴輪は、出土状況から墳丘の盛土に埋められたままの状態であることが確認でき、第2段目平坦面の埴輪列であることが分かります。また、埴輪列の検出によって、後円部の第2段目平坦面の位置や高さ、埴輪の設置間隔を知ることができました。

出土遺物

各トレンチで、古墳の築造時期を示す円筒埴輪片が出土しています。また、トレンチ2からは円筒埴輪だけでなく、形象埴輪の一種である蓋形埴輪^{きぬがさ}、鐙付壺形埴輪^{つぼつき}や、土師器も出土しており、乾屋敷古墳における儀礼を考える上で重要な遺物が見つっています。その他に、中世の五輪塔（火輪・水輪）や山茶碗、近世以降の陶磁器の破片が出土しており、古墳築造後からの履歴を考える手がかりが得られつつあります。

今年度調査の意義

前方部の第1段目斜面には全面に葺石が施工されていた可能性が高まりました。くびれ部と想定していた位置で葺石が良好に残存していましたが、葺石の検出面が円弧を描かず直線的であることや、形象埴輪が多く出土していることなどから、くびれ部ではなく、造り出しや渡り土手の可能性も出てきました。後円部第2段目平坦面には円筒埴輪列が良好に残存していることも分かりました。ただし、第2段目平坦面の幅や第3段目の斜面については、引き続いて調査をおこなう必要があります。周濠の平面形は、前方後円形ではなく、馬蹄形または盾形を呈することも分かってきました。

また、古墳が完成した後、現在に至るまでにどのような履歴をたどったかについても情報が得られつつあります。戦国時代頃までは周濠の名残で溝があり、古墳の墳丘などは五輪塔などを使った中世の墓地となっていた可能性が高まりました。その後、江戸時代初頭に織田河内守邸が造成されるに際して、墳丘が削られ、周濠も埋め立てられています。この時期の大土木工事の様子をみることができました。

出土した埴輪からは、乾屋敷古墳が野古墳群において最初に築造された前方後円墳であるというこれまでの見解を追認することができました。また、くびれ部付近から蓋形埴輪等の形象埴輪がまとまって出土しており、乾屋敷古墳の埴輪の様相も分かりつつあります。

今後は、これまでの成果を総合的に検討し、乾屋敷古墳の実態について詳らかにしていきたいと思います。

調査担当：岡田勝幸（大野町教育委員会）、原田昌浩（南山大学人文学部講師）、株式会社イビソク

参加学生：荒川結、安藤柚香、古田優弥、林優貴、猪飼苺、梶野隼介、唐木涼菜、松本和花、村松莉帆、高森一史、氏原羽衣、渡邊俊太、山口結輝、青木京菜、浜口真太郎、角矢陽輝、金澤琉華、兼井連、加藤明日香、諸岡勇心、正田早嬉忠、高橋叡生、石井一誠、三ツ石芽衣、永田吹歌、野田文音、砥綿一圭、安達海斗、伊藤颯真、小塚駿、澤田実苗、和田大輝、渡邊聡太（以上、南山大学）、兼松泰弘（愛知学院大学）、長尾哲汰（滋賀県立大学）、松岡侑士、増本龍、浅倉淳志、後藤明日和（以上、早稲田大学）

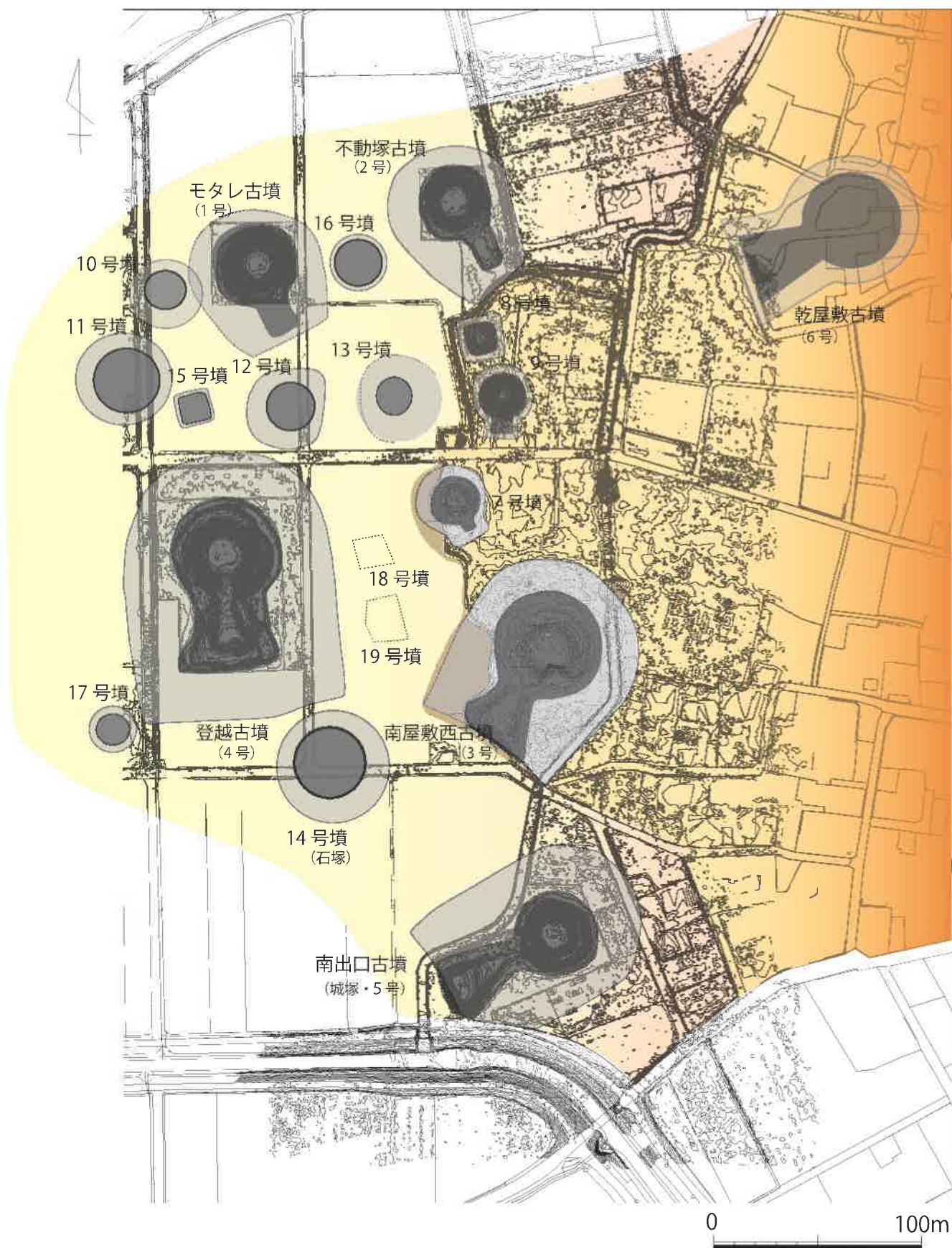


図1 野古墳群分布図（『史跡野古墳群保存活用計画』より）

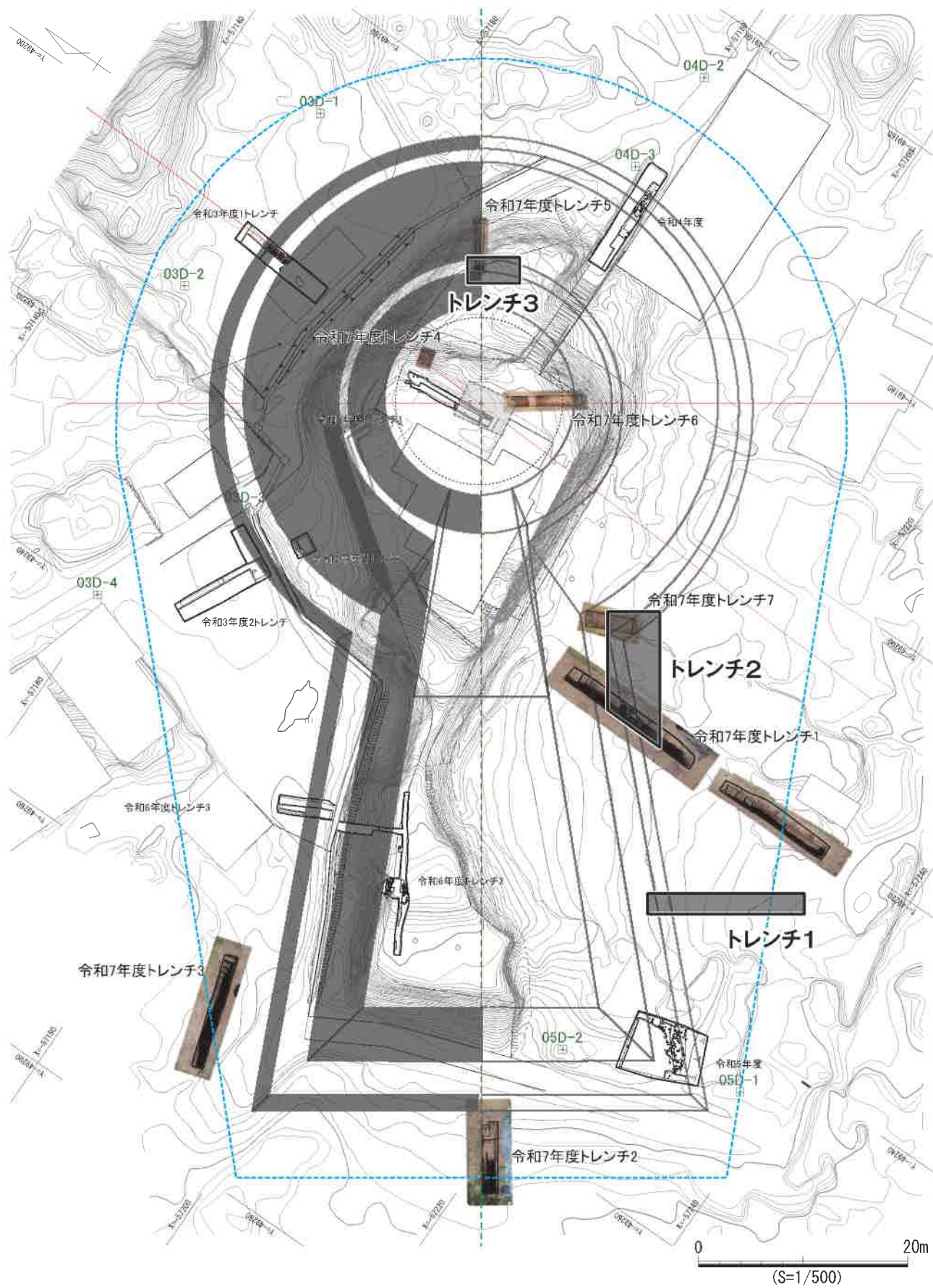


図2 乾屋敷古墳の墳丘測量図とトレンチ配置図